

Scale 1/43

#12008

available

06/2020

Limited edition 333 Stk.



異質なもののへの賛美

第二次世界大戦後、フランコ将軍の指揮下で、スペインは自給自足経済を促進しました。これは、経済のほぼすべての部門に影響を及ぼし、したがって自動車産業にも影響を及ぼしました。トラックの製造のために、「ENASA S.A.」として知られる国营工場「Empresa nacional autocamiones sociedad anonima」が設立されました。戦後間もない「ヒスパノスイザ」とそのモデル「66 G」の生産を引き継いだ生産で、現在は国内でペガソの名称で販売されています。1954年には、140馬力のディーゼルエンジンを扱うことになり、最高速度は約80 km / hまで加速することができました。この時期はまた、多くの消防署が新しい緊急車両を導入している時でした。

基本的に、消防車はすべて、運転席を閉じた状態を義務付けられていました… ある一台を除いて！
シエラモレナに本拠を置く会社「Mining

Metallurgical Society」がなぜ従来の消防車とは大きく異なり、量産車でない特別なトラックを注文したのか、その理由はわかりません。おそらく、工場のそびえ立つボイラーに届くように回転可能なはしごを所有したいという単純な願いが理由だったかもしれません。高価な車体を装備せずに広範囲を移動できるという理由だったのかもしれません。ただ今考えられる理由は2つあります。1つ目は、消防車が会社の敷地内でのみ使用されていたため、車両登録センターの規則や規制を満たす必要がなかったこと、2つ目は、実用主義に関連しています、つまり回転はしごを装備しながら、オープンになっている運転室を運転席から車両後部に素早く到達できるということです。車両を出入りする必要がないため、貴重な時間を節約できます。

AutoCult GmbH
Äußere Further Straße 3
90530 Wendelstein
Germany

電話番号 +49 / 9129 / 296 4280
ファックス +49 / 9129 / 296 4281
info@autocult.de

www.autocult-models.de